

山下雄太郎¹⁾長江 浩朗¹⁾藤井 義幸²⁾山下 理子²⁾

1) 徳島赤十字病院 形成外科

2) 徳島赤十字病院 病理部

要 旨

症例は54歳女性。20年前に右足の皮下腫瘍を切除された。最近になって同部に複数個の腫瘍が出現してきたため切除術を施行したところ境界明瞭な赤色の腫瘍が4つ摘出された。病理組織像では血管周囲に同心円状に短紡錘形細胞の増加を認め、免疫組織化学的には α -smooth muscle actinが陽性、CD34は部分的に陽性であった。以上より筋血管周皮腫と診断した。筋血管周皮腫は1998年に Granter らによって最初に報告された比較的まれな良性腫瘍であり、2002年WHO分類に新しく加えられた疾患単位である。中高年の四肢遠位部皮下に好発し、無症状で緩徐に発育し時に疼痛を認める。多くは孤発性で稀に悪性転化の報告もあり治療は切除となる。筋血管周皮腫について若干の文献的考察を加えて報告する。

キーワード：筋血管周皮腫，再発，足

はじめに

筋血管周皮腫は2002年にWHO分類に加えられた比較的新しい疾患概念である。比較的まれな良性腫瘍であり本邦での報告はまだ41例しかない。今回、20年前に足に発生した皮下腫瘍を切除した部位に再発した筋血管周皮腫の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患 者：54歳 女性

主 訴：左足皮下腫瘍

既往歴：高血圧，子宮筋腫

現病歴：約20年前に左足に皮下腫瘍が出現し、近医で切除術をうけた。最近になって同部に複数個の腫瘍が再発してきたため当科受診した。

現 症：左足に以前の手術創を認め、その周囲に数個の腫瘍を触知する（図1）。

治療と経過：ガングリオンの再発を疑い腫瘍の切除術を施行した。術中所見では皮下脂肪織内に境界明瞭で紅色腫瘍を4つ認めた（図2）。

術後1年で局所再発を認めていない。

病理組織学的所見：病理検査では多数の血管腔を認め腫瘍細胞が同心円状に配列していた。免疫染色では α -SMA (smooth muscle actin) で陽性、CD34は部分的に陽性であった。（図3，4）以上より myopericytoma（筋血管周皮腫）と診断された。



図1 術後の瘢痕に沿って複数個の腫瘍を触知する

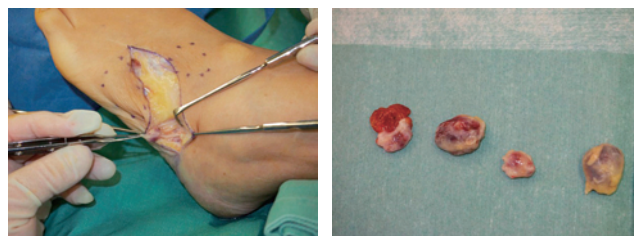


図2 術中所見。境界明瞭な赤色腫瘍が4つ摘出された

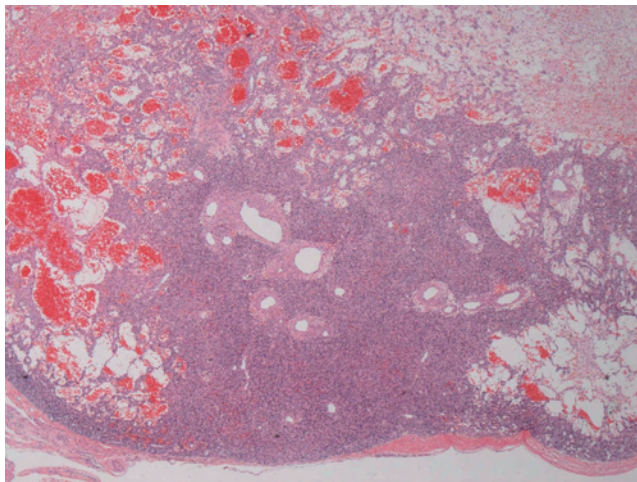


図3 HE染色：多数の血管腔を認め腫瘍細胞が同心円状に配列する

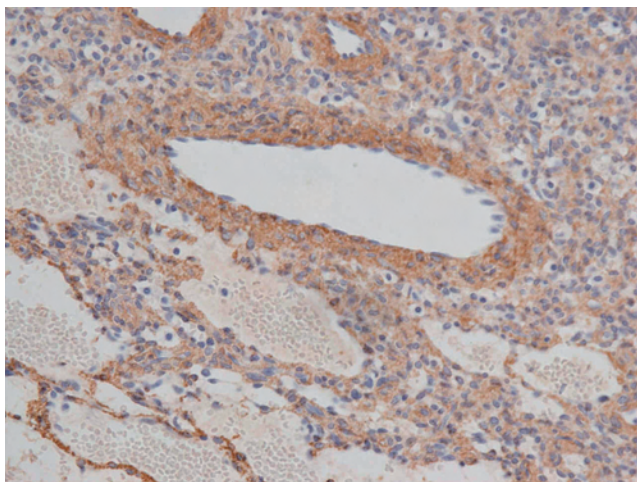


図4 α-SMA染色：腫瘍細胞は陽性を示す

考 察

筋血管周皮腫は平滑筋細胞に類する特徴を有する血管周囲細胞への分化をもつ腫瘍として1998年 Granter ら¹⁾によって報告され2002年の軟部腫瘍 WHO 分類に新しく加えられた疾患単位である。臨床的特徴としては中高年の四肢遠位部皮下に好発し、無症状で緩徐に発育し時に疼痛を伴う。多くは孤発性である²⁾。以前は myofibroma や hemangiopericytoma と診断されていたと考えられている。

病理学的な特徴としては粘液質に富んだ卵円形～紡錘形細胞の増殖からなり、腫瘍内には大小さまざまな

血管が介在し、それらの血管間に腫瘍細胞の巣状増殖を認める。また血管周囲紡錘形腫瘍細胞が束状もしくは渦巻状に配列する像が特徴的である。免疫染色では α-SMA がびまん性に陽性、desmin や CD34 に局所陽性を認める。

海外では Mentzel らが54例を報告しており³⁾男性34例、女性18例で平均年齢は52歳(13～87歳)、発生部位は下肢が26例、上肢16例、頭頸部4例、体幹2例、不明5例であった。そのうち再発例は2例で切除術から1年後と4年後に再発を認めており1例は悪性化がみられた。再発率としては3.7%と高くはなく、悪性化はさらに稀であった。McMenemin らは悪性筋血管周皮腫の5例を報告している⁴⁾。3例は多臓器への転位をきたし1年以内に腫瘍死している。そのうち1例は術後に放射線治療を施行しているが7か月で不幸な転帰をとった。他の1例は下肢に多発性の良性筋血管周皮腫を認め、放射線治療を行った後6年後に悪性化を認めその後1年以内に腫瘍死している。悪性化の報告は少ないものの悪性化すると非常に予後は悪いと考えられる。

今回の症例は経過から20年前に切除された筋血管周皮腫の再発と考えたが、前回手術の病理診断は不明である。外傷後に筋血管周皮腫が発生したとの報告もあり⁵⁾、手術の侵襲によって術後創部に新しく筋血管周皮腫が発生した可能性は完全に否定はできない。しかしこれまで手術創に同疾患が発生したという報告はない。さらに多発例の報告はあるが今回の症例のように1つの傷に複数個腫瘍が発生したという報告はないため、取り残した筋血管周皮腫の再発とするのが妥当と思われる。筋血管周皮腫自体が新しい疾患概念であることよりこれまで数年後の再発例しか報告はないが、今回の症例によって20年以上経過してから再発する可能性も示唆された。今回の症例では腫瘍が術後瘢痕にそって複数個再発しており手術が煩雑となった。稀ではあるが悪性転化の可能性もあるため治療には初回手術での完全切除が肝要であり、術後長期にわたり再発の可能性のあることは念頭におく必要があると思われる。

文 献

- 1) Granter SR, Badizadegan K, Fletcher CD: Myofibromatosis in adults, glomangiopericytoma,

- and myopericytoma: a spectrum of tumors showing perivascular myoid differentiation. *Am J Surg Pathol* 1998 ; 22 : 513–25
- 2) McMenamin ME: Myopericytoma. In: *Pathology and Genetics of Tumors of Soft Tissue and Bone*, Eds Fletcher CD, Unni KK, Mertens F, Lyon: IARC press 2002 ; p138–9
- 3) Mentzel T, Dei Tos AP, Sapi Z, et al: Myopericytoma of skin and soft tissues: clinicopathologic and immunohistochemical study of 54 cases. *Am J Surg Pathol* 2006 ; 30 : 104–13
- 4) McMenamin ME, Fletcher CD: Malignant myopericytoma: expanding the spectrum of tumors with myopericytoma differentiation. *Histopathology* 2002 ; 41 : 450–60
- 5) Laga AC, Tajirian AL, Islam MN, et al: Myopericytoma: report of two cases as associated with trauma. *J Cutan Pathol* 2008 ; 35 : 866–70

Myopericytoma recurrence in the foot 20 years after surgery : a case report

Yutaro YAMASHITA¹⁾, Hiroaki NAGAE¹⁾, Yoshiyuki FUJII²⁾, Michiko YAMASHITA²⁾

1) Division of Plastic Surgery, Tokushima Red Cross Hospital

2) Division of Pathology, Tokushima Red Cross Hospital

A 54-year-old woman presented with tumors on her right leg. She had previously undergone surgery for tumor excision in the same region 20 years previously. Surgical excision was performed, and histological examination of the tumor tissue revealed myopericytoma comprising oval-to-spindle shaped myoid cells and showing striking multilayered concentric growth around lesional blood vessels. Immunohistochemical staining showed diffuse immunoreactivity for alpha-smooth muscle actin. The endothelium of vessels stained for CD34 on immunohistochemistry. These findings led to a diagnosis of myopericytoma. Myopericytoma is a newly defined benign soft tumor. This tumor usually arises in the extremities of the elderly as a painless slow-growing nodule. However, some lesions may be painful, and malignant lesions are encountered very rarely. Here, we report a case of recurrent myopericytoma.

Key words: myopericytoma, recurrence, foot

Tokushima Red Cross Hospital Medical Journal 19:49–51, 2014
